

一ノ四、十卷本伊呂波字類抄

出典 十卷本伊呂波字類抄 正宗敦夫編 風間書房発行 昭和六三年七月

校刊美術史料、寺院篇 藤田経世編 中央公論美術出版 一九九九年五月

解説 色葉字類抄は橘忠兼が編纂した古代国語辞典。二巻本は一一四四年から四五年、三巻本は一一七七年から八一年に成立。十巻本（十巻本は伊呂波字類抄という）はこれに大幅な補訂を加えて鎌倉時代初期に成立したと思われる。

この十巻本伊呂波字類抄の「諸寺」の項に、勝尾、葛木と並んで笠置が記されている。内容は天智天皇の皇子が笠置山で弥勒像を彫頭する謂われを記すが、殆どその語彙に至るまで笠置寺縁起にひきつがれている。

読み下し文

笠置 カサギ
天智天皇御願

天智天皇皇子狩獵の間、皇子鹿に就き馳行し、駿馬高岸に到臨す。鹿足を失して落つ。弓矢を抛げ、手繩を引くと雖も敢て留まらず。崢巖の透出するに至り、馬駭き足を余し、四蹄を一処に聚む。直下は十丈許也。眼は眩転して溪床も矚えず。驚きて馬を還さんと擬るも足の踏む所も無く、夢みるが如し。

願いて曰く、山神鬼魅、若し吾が命を扶くれば巖畔に於いて弥勒の尊像を刻み奉てまつると。願の力に依りて、須臾にして冥助有るが如く助かる。仍つて之を建立すと。

原文

笠置カサギ天智天皇御願

天智天皇皇子狩獵之間、皇子就鹿馳行、駿馬到臨高岸、鹿失足而落抛弓矢、雖引手繩敢不留、至崢巖之透出、馬駭餘足、四蹄聚一処、直下者十許丈也、眼眩転而不矚谿床、驚擬還馬、無足之所踏、如夢。願曰山神鬼魅、若扶吾命者、於巖畔奉刻弥勒尊像、依願力須臾如有冥助、仍建立之、